

第38回日本銅センター定時総会



日本銅センターでは、去る五月三十一日、東京「銀座東武ホテル」において第三十八回定時総会および理事会を開催し、左記の通り役員を選任した。

〈新任〉吉野 哲夫(古河機械金属(株)代表取締役社長)：〈会長〉

〈留任〉矢野 信治(株)神戸製鋼所専務執行役員)：〈副会長〉

〈副会長〉

〈新任〉辻川 昭(株)フジクラ代表取締役社長)：〈副会長〉

第29回日本銅センター賞表彰式



日本銅センターでは、去る五月三十一日、東京「銀座東武ホテル」において第二十九回日本銅センター賞の表彰式を行った。受賞者は次の通り。

● 室蘭工業大学

教授・世利 修美 助手・境 昌宏

件名・建築用銅管の孔食発生機構の解明と防食技術の開発ならびにその啓蒙活動による建築用銅管の普及促進

● サンケン電気株式会社

件名・半導体用銅および銅合金リードフレームおよび発光ダイオード用リードピンの普及と発展

● 平井精密工業株式会社

件名・伸銅品に対する表面処理(鍍金)技術の開発・普及

● 石川県管工事協同組合

件名・水道用銅管の普及促進

「銅管ヘッダー工法」5つの特長をPR

『第24回管工機材・設備総合展』



去る六月十三日から十五日までの三日間、名古屋市中企業振興会館(吹上ホール)で、「第24回管工機材・設備総合展」が開催された。

日本銅センターはこの展示会に出展。銅管ヘッダー工法の①火を使わない機械式継手の施工の容易さ②湯待ち時間が短い③経済的④環境にやさしい⑤衛生的などの五つの特長について積極的にアピールした。また経済コストの比較や施工手順、PRポスターなどを展示し、多くの来場者の注目をあつめた。

世界同時記者発表

『レジオネラ菌に対する銅素材の抗菌効果』

銅素材の抗菌効果

去る七月二十四日、日本銅センターはプレス会見で「レジオネラ菌に対する銅素材の抗菌効果」が、(財)北里環境科学センターによる実証実験で証明されたと発表した。水道用配管として使用されている銅板、ステンレス板、塩化ビニル板の三種類を用いた評価試験で、銅板のみがレジオネラ菌に対する高い抗菌効果が認められた。

このニュースはニューヨークの国際銅協会本部(ICA)およびシンガポールの東南アジア銅センターを通じて、世界同時発表となった。

東北6県でTV番組放映

『ようこそ!! 銅の不思議旅へ』



このほど、日本銅センターは、初めてテレビ番組「ようこそ!! 銅の不思議旅へ」(二十一世紀)銅の魅力が加速する」を制作し、東北6県においてテレビ朝日系で放映した。

この番組は、ICA(国際銅協会)の支援を受けて制作された。沈没軍艦(徳川幕府の旗艦「開陽丸」)を保護する銅ネットについてや、アルツハイマー病と銅イオンの研究、東京アイズニシー内・ホテルに使用されている銅の装飾、銅器物をつくりだす職人芸など、銅に関する興味深い話を、女優の紺野美沙子さんがインタビュアーとして、またナレーターとして出演し、銅の世界を案内していく。

英語版の海外バージョンもあわせて制作され、海外でのPRにも役立てられる。

銅管PRポスター3種が完成



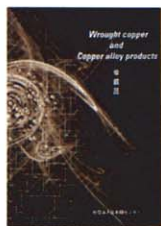
このほど、給水・給湯用銅管普及のため、配管工事業者向けにPR用ポスター3種が制作された。ポスターは火を使わない機械式継手による施工の容易さ、軽量、衛生的(抗菌効果)、環境ホルモンと無縁などの特長をアピールしている。また、ポスターを通じて「銅管ヘッダー工法」のモニターを募集しており、モニターは銅管による給水・給湯用配管施工を行う水道工事店の中から選考され、被覆銅管(〇A)および機械式継手、ヘッダーが二分プレゼントされる。募集は来年三月末まで。

大好評! 冊子

新『伸銅品』

伸銅品の特性、伸銅工業の歴史などをまとめた冊子「伸銅品」が発刊され、人気をあつめている。

冊子は、伸銅品の特性をはじめとして、多種多様な用途例が写真を中心に紹介されている。また原料から製錬、溶解、圧延にいたる製造工程をわかりやすく図解で解説しており、伸銅品を知る入門書としての要素が充実している。入手等のお問い合わせは日本銅センターまで。



『銅管ヘッダー工法』ビデオが完成

「銅管ヘッダー工法」をわかりやすく解説したビデオが完成した。

銅管ヘッダー工法は、継手がヘッダー部と蛇口部のみで、しかも火を使わない機械式継手による施工方法。従来にくらべ大幅に施工性が向上する。また、湯待ち時間が短い、流量変動が小さい、さらに銅管は、衛生的(抗菌効果)、すぐれたリサイクル性、CO₂排出量の低減、環境ホルモンとは無縁などの特性を持つ。

ビデオではこのような特性を紹介するほか、施工例や施工者のインタビューなどを収録。「銅管ヘッダー工法」をわかりやすく解説している。視聴をご希望の方は日本銅センターまで。



編集手帖

●ユーザー訪問——国際競争力にさらされる厳しい現実の世界。世界屈指の実力の中にあつてもなお、額に汗する最先端企業の人々。プロジェクトXの世界がそこにあつた。

●古代ロマンのついで「天智天皇の水時計」。今回はひと味違った視点からの取材。古代ハイテクに脱帽。そして現代にのみがえる銅管パワーに期待。

●「建築にはそれをつくることによる環境の負荷を減らすような積極的提案をする義務がでてきた」とは建築家・故内井昭蔵先生の言。「銅」への励ましの言。イメージーションの力か。

「銅」誌編集委員会

- 〈委員長〉増木孝美(古河電工)
- 〈委員〉鉦山/安部清尊(三菱マテリアル)
- 松浦明一郎(日鉦金属) 永田禎彦
- (日本鋳業協会) 伸銅/富家将之(三菱伸銅)
- 馬場二憲(神戸製鋼) 松坂和則(日本伸銅協会) 電線/瀧本英樹(フジクラ)
- 宮田充(日本電線工業会)

編集

(株)ピー・アール・オー

「銅」第一五五号

平成十四年十月一日発行
 発行人・波田野純一
 発行所・社団法人日本銅センター
 東京都台東区上野二・一〇一(うきやビル5F)
 TEL/〇三(三三三三六) 八八二一
 FAX/〇三(三三三三六) 八八二八
 関西事務所
 大阪市北区堂島浜二・二九九(吉河大阪ビル)
 TEL/〇六(六三三四六) 五四七一
 FAX/〇六(六三三四六) 五四七三

無断転載禁